

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町 3-6
☎ 0959 (72) 3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

クリスマスを祝う

主任司祭 中村 満



先月の十九日からイタリヤ巡礼に出かけることができた。ペトロ岐部と一八七福者の列福一〇周年の記念に合わせて実施されたもので、主に岐部神父とジュリアン神父にゆかりのある地を訪ねることができた。特に岐部神父が司祭に叙階されたラテラノ大聖堂、天正遣欧使節たちの個人の名前が刻まれた大理石の記念碑は、とても印象深く、感銘した。クリスマス

を前にローマだけでなく、福者の神父たちの足跡を辿ることができたことは、この上なく霊的喜びを得ることができたと感謝している。さて、クリスマス (Christmas) という言葉の起りは、Christ Mass (キリストのミサ) にあります。キリストのミサ (Mass) が、やがてクリスマスと呼ばれるようになりました。Xmasと略記されることもあります。Xはギリシア語、キリストの表記の第一文字です。クリスマスは少なくとも二つの大きな意義を持っています。その一つは、マタイ福音史家が「神は我々と共におられる」という意味である『(マタイ1、23)と記しているように、幼子として誕生するイエスが私たちと共におられることを追体験し、共におられるイエスを礼拝し、賛美し、その救い

の業に感謝することにあります。父である神は御子が人となることを望み、御子はそれを受け入れ、人として生まれられました。御子が人となり、救い主として私たちの下に来られたことを祝い、感謝することがクリスマスのねらいです。

もう一つは、キリストのミサと言われるように、ミサ(感謝の祭儀)の中で救い主の誕生を祝うと同時に、聖体拝領によって実際に「共におられるイエス」を体験することです。

イエスご自身であるご聖体をいただくことは、イエスが共におられることを体験する確かな時です。共におられる方となったイエスの誕生を祝い、共におられるイエスご自身をいただく。クリスマス・キリストのミサは、まさに大きな喜び、感謝です。

ところで、クリスマスの情景を肉眼で見ることができるよう、馬小屋を最初に考え出したのは、アシジの聖フランシスコだと言われます。現在もアシジの大聖堂にはフランシスコの考えた馬小屋が置かれています。それは質素ながら、誕生の場面を思い描くに足るも

のです。臨場感を持つて誕生の場面を思い起こし、誕生の意義や恵みを黙想し、幼子への感謝を捧げるように招くために考案したものです。わたし達の教会堂の中にも毎年馬小屋を設置しています。年ごとに少しずつ工夫しています。本来の誕生の場面を思い描き、誕生の意義を黙想するための助けのためです。馬小屋の前に座り、例えばルカ福音の誕生の記述をゆっくり読みながら黙想し、味わうことが大切だと言えます。母親に連れられ、馬小屋の前に行き、跪いて家族で祈ったことを覚えています。馬草桶に寝かされている幼子を訪ねあてた羊飼いのように、幼子の救い主を訪ねあてることができるようクリスマスになるように願っています。

クリスマスを迎えられる皆様方の上に、幼子イエスの祝福が豊かにありますように。



牢屋の窄殉教祭 2018



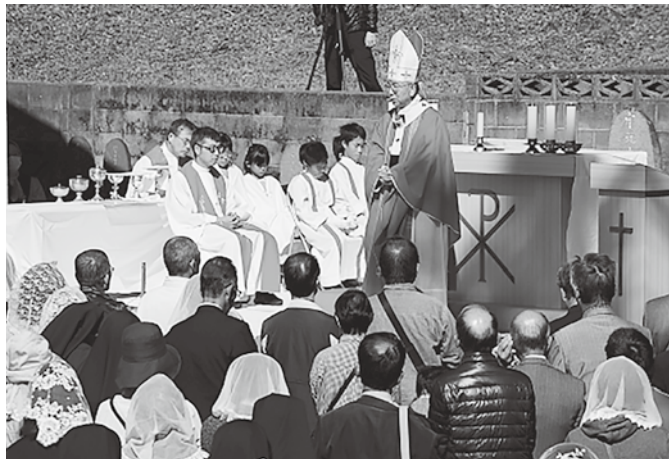
十月二十八日(日) 牢屋の窄殉教祭が久賀島の殉教地跡にて行われた。一八六八年(明治元年)の殉教から今年で一五〇周年の大きな節目を迎えた事もあり、高見大司教様をはじめ多くの島外からの神父様も参列し盛大なる記念ミサが執り行われた。

当日は好天に恵まれ陽光が刺す中にも、秋風が時折強く吹き荒れる様子であった。下五島の信徒、シスターをはじめ、島外からの巡礼団も数多く来島し、例年を大きく上回る信徒

が参加した。記念ミサを前に殉教者へ祈りを献げるべく、久賀小中学校から殉教地までの道のりを皆でロザリオを唱えつつ行進した。

記念ミサでは、殉教の様子を伝えた祈念碑の碑文朗読の後、信徒、大司教様による献花が行われた。大司教様は説教の中で「自分の命を惜しげもなく捧げた殉教者に倣い、私達も信仰を守り伝えて行かねばならない。殉教者の血は信仰の種、後に多くの実を結ぶ。神様を信じるために、神様との絆を失いたくないという思いが、殉教に向かわせた。」「豊かな現代にあっても、時として神様が色あせてしまいかも知れないが、本当は逆である。死ねばこの世の全てを失うが、神様との繋がりがだけが残る。彼らの信仰の素晴らしさを思いながら、私たちがどのように做う事が出来るか考え具体的に実践に繋げて欲しい。」と述べられた。

今年には久賀島の集落が世界文化遺産に登録された事も重なり、例年になくマスコミの取材が多く見られた。一五〇年前にこの地であった殉教について、地元の信徒である我々が知り、伝えていくことの大切さを改めて感じた殉教祭であった。



「久賀島カトリック信徒囚獄の跡」石碑



五島市役所での寄付金贈呈の様子
小島由光さん(写真右)、久賀島の信徒小島満さんと。

五島列島支援プロジェクト(小島由光代表)は、牢屋の窄殉教地保全目的で中村主任神父様に三十万円を寄付した。

寄付金で「久賀島カトリック信徒囚獄の跡」の石碑を牢屋の窄殉教祭一五〇周年に合わせて設置した。

寄付金をいただきました！

初聖体式

おめでとう!!

2018

十一月二十五日(日)に山内神父様の司式にて初聖体式ミサが行われた。今年は男子女子各六名の計



十二名の子供たちだが、四月から教会学校での準備期間を経て晴れの日をむかえた。独特の緊張感の中、子供たちと保護者はろうそくの火を前



「神様に喜んでもらうために頑張ること!」

に神様に對し、信仰を宣言し、誓いをたてた。そしていよいよ初めての聖体拝領。

特別大きな御聖体が神父様によつて十二個に分けられた。各々が小さな手に御聖体をいただき、ぎこちない仕草で口に運んでいた。初聖体により、イエス様と更に近くなつ

た喜びを感じた子供たち。神父様やカテキスタ、上級生たちに支えられながらカトリック信者としてすくすくと成長していくことでしょう。



◆ミカエル
山下航洋くん
「友達となかよくする」

◆パウロ
洗川格之進くん
「友達となかよくする」

◆フランシスコ
小出大志くん
「友達をたいせつにします」

◆ヨゼフ
小田郁馬くん
「ミサをいっぱいうけます」

◆ルカ
入口小次郎くん
「家族と友達をたいせつにする」

◆ヨゼフ
深城渚くん
「妹にもっとやさしくします」



◆クララ
戸村初音さん
「友達や家族をたいせつにします」

◆テレジア
谷川季湖さん
「お父さんやお母さんの言うことをきくことです」

◆ラファエラマリア
西津里咲さん
「家族をたいせつにします」

◆マリア
馬津川莉子さん
「大きな声でおいのりをします」

◆マリア
真鳥碧央子さん
「ミサの時にきれいに手を合わせてお祈りすることです」

◆アグネス
田端夕妃さん
「お母さんを買ってもらった物をたいせつにします」

墓地ミサ

十一月四日(日)午後三時より、桐ヶ丘墓地にて死者のためのミサが執り行われた。ミサに先だつて墓地の清掃が行われ、好天の中約四〇人が除草作業などに参加した。墓石の周囲や参道に造花が散乱していたり、生い茂った雑草の多くが枯れていたりと、この秋に襲来した台風の影響が感じられた。

掃除の後行われたミサには、八十人程が参列した。ミサの中で、中村神父様は「亡くなった先輩、先人に思いを馳せる事は自分自身を振り返ることに繋がる。同時に亡くなった方との絆を確認する機会ともなる。」と述べられた。

毎年この時期に行っている墓地ミサを通して、先祖への感謝の思いと日頃の信仰生活について思い直す良い機会となった。毎年高齢の方の参加がほとんどであり、若い世代の参加が増えるよう願いながら帰路についた。



五島産 樺のロザリオを フランシスコ教皇様に献上!

福江教会信徒 本山孝雄



今年三月、黙想会に広島教区白浜満司教様が講師として来られた時、休憩時間、少しお話しする機会がありました。話の中で「私は五島の樺の木を削りロザリオを手作りしています。もし、フランシスコ教皇様が来日した際は、樺のロザリオをプレゼントするのが夢なんです！」と自分の夢を話しました。なぜ白浜司教様にこのようなことを話したのかというと、教皇様が来日の際は広島へ必ず訪問してくださいと思っただけです。白浜司教様は、「教皇様が来日するのを待っているより、持って行ったほうが早いかもしれないね。今度、私がバチカンで謁見するチャンスがあるから預かっておこうか?」と思いきや、ぬぐ



提案がありました。私は二つ返事でそのご提案を受け、八月に広島へ行き、手作りした樺のロザリオを白浜司教様に預けるとともに、広島豪雨災害の復旧ボランティアにも土砂の掻き出しで参加しました。猛暑の中で私ができたことは微々たるものでしたが、力を合わせて無事に務めることができました。その一ヶ月後、白浜司教様より連絡があり、マリア様のお誕生日の九月八日、教皇様と謁見でき、差し上げた樺のロザリオを教皇様も喜んで受け取って頂けたそうです。

樺のロザリオが仕上がるまでに多くの方の助けがあり、このように夢が叶いました。私自身、ロザリオの作り手として励みになりますし、一層精進してロザリオを通しての宣教を頑張っていきたいと思えます。これから毎年皆様より提供していただいている材料を使ってぜひ、クリスマス前後



10月11月は信徒会館にてDVD「沈黙」を鑑賞しました。

高校生会

(青少年委員会)より

現在、二三名の高校生が所属し福江教会高校生会として神父様方の力添えを頂きながら活動を行っております。最近では、聖母祭での出店など参加させていただいております。

来年の聖母祭では甚平を着用して参加したいため、信徒の皆様へ寄付のお願いをしたところですが、多数ご提供いただきました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。またシスター方、信徒の皆様方、高校生の活動を温かく見守ってください感謝しています。

さて、高校生会の活動としましては、現在、中学三年生も可能な時は参加するように、年度初めに神父様方、役員で各学校の一年間の行事を考慮しすり合わせて毎月一回土曜日の晩の御ミサでの聖書朗読、終了後、信徒会館にて話し合い等を行っております。

祭後にお菓子とともに配布します。で、信徒会館にお立ち寄りください。共に温まると幸いです。

来年三月まで、高校生のための黙想会(3/23土)、旅立ちの集い(3/9土)などと活動は続き、信徒の皆様にも何かとお願ひすることがあるかと思いますが、温かく見守っていただくとともにご理解ご協力をお願いいたします。

お知らせ

◆クリスマス、年末年始のごミサの時間

《クリスマスミサ》

12月24日(月) 午後7時

※ミサ後にぜんざいサービスがあります。

12月25日(火) 午前9時

《年末ミサ》

12月31日(月) 午前6時

午後7時

《年始ミサ》

1月1日(火) 午前9時

1月2日(水) 午前9時

1月3日(木) 午前9時

◆今後の日程

1月6日(日)

馬小屋、イルミネーション撤去

1月20日(日)

下五島地区合同堅信式

1月29日(火)

司祭団マラソン大会